

## 日本語日本文学専攻

### 人材養成および教育研究上の目的

---

日本語日本文学専攻においては、日本文化の根幹である言語と文学の研究を深め、それが真の国際化に寄与するとの観点から、日本語学・日本文学の各分野においてカリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では、学部での習熟度を踏まえ、研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、社会諸方面の要請に応えることのできる専門職業人を育成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程で培った専門的能力をより錬磨させ、体系的な研究業績の達成はもとより、社会に貢献する高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

日本語日本文学専攻は、博士課程前期では専門知識を持つ社会人を育成すべく、学部の教育課程において日本語と日本文学を学んで一定の成果をあげ、さらに深く専門的研究を志す学生を広く受け入れる。日本語学においては古代語から現代語まで、日本文学においては古典から近代文学まで、幅広い時代と分野に対応してこれを受け入れる。博士課程後期では、博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、蓄積してきた研究成果をいっそうひろげ深めようという向上心・探究心を持つ者を受け入れる。社会人、留学生にも門戸を開く。

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本語日本文学専攻の博士課程前期では、旧来の国語国文学の枠組みを保ちつつ、伝統の現代的意義や世界的な意義を把握すべく日本語日本文学を研究する教育体系とする。日本語と日本文学双方において古代から近代までの専門教員を配し、他の専門領域の授業も自由に履修することができ、学生の視野を広げるようにする。学生は指導教員による個別指導を受け、演習においては研究能力を高め、講義においてはその基礎となる知識と方法とを学ぶことになる。博士課程後期においては、指導教員による個別指導が一層重要となり、最終的には博士論文の作成に研究成果を結実させることとする。また必要に応じて、外部から招聘する非常勤講師の講義も用意する。





#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

日本語日本文学専攻の博士課程前期では、学生各々が所定の課程を経て自らの研究課題を発見し、その問題の解決のための方法とそれを論文の形式で表現する方法とを身につけ、解決に至った道筋を修士論文に仕上げたのち、厳格な審査によって同論文が合格と判定された場合に課程修了とし、修士号が授与される。

博士課程後期では、日本語学もしくは日本文学の指導教員の指導のもとに各々の研究テーマをさらに深め、博士論文の審査によって以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に博士（文学）の学位を授与する。

- ・ 専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、研究者として自立した活動ができること。
- ・ 専門分野の文献の調査、あるいはデータの収集や分析に関して指導的な役割を果たすことができること。
- ・ 専門分野において後進を指導し育成する資質や指導力を身につけていること。

